

栃木県の「老舗企業」 739社判明 老舗出現率は3.07%

業種別では、「木造建築工事業」が最多の29社
「旅館」、「清酒製造業」各22社などが続く

栃木県・「老舗企業」分析調査(2025 年)



本件照会先

古川 哲也(調査担当)
帝国データバンク
宇都宮支店
TEL: 028-636-0222(代表)
info.utsunomiya@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/07/24

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

栃木県内企業において2025年12月時点で業歴100年を超える老舗企業は739社と前年比では25社の増加となった。老舗出現率は3.07%となり、都道府県別の出現率は第25位。業種細分類別では、「木造建築工事業」が29社で最多。以下、「旅館」と「清酒製造業」が各22社、「一般土木建築工事業」21社などが続いた。売上高構成比では、「1億円未満」が最多の47.0%、「1億～10億円未満」が37.8%と、合わせて84.8%の企業が中小企業であった。

※帝国データバンク宇都宮支店では、弊社が保有する企業概要ファイル「COSMOS2」(2025年12月時点、約150万社収録)に加え、独自で収集し、営業の実体を確認できた企業を基に、創業・設立から100年以上の企業を「老舗企業」と定義し、分析を行った。

※創業時が元号・時代のみ判明している場合には、各元号・時代の最終年を創業年として集計した。

栃木県の老舗企業は739社、老舗出現率は3.07%

栃木県内企業において、2025年12月時点で業歴100年を超える老舗企業は、739社を数えた。前年比では25社増加している。また、老舗企業の割合を指す「老舗出現率」は、昨年を上回る3.07%となった。

通説によれば、「企業の平均寿命は30年」ともいわれているが、弊社が2024年に倒産した企業の平均寿命を集計すると23.2年であった。東日本大震災や、コロナ禍といった自然災害の影響も否めないものの、さらに寿命は短縮していると言えるのかもしれない。事業を継続することの厳しさは、こういった数値を見ても想像がつく。長寿企業がいかに貴重な存在か、改めて理解できるのではないだろうか。

老舗企業数 推移



ちなみに今回のデータに上がった企業トップ10社を紹介してみる。県内最古の企業は、(株)板室観光ホテル大黒屋(那須塩原市、旅館)で、1551年創業と業歴は475年にのぼる。1551年(天文20年)といえば、室町時代後期であり、応仁の乱以降幕府の勢力は弱体化していた頃だ。大黒屋はこんな時代に温泉宿場として開湯した板室温泉で産声を上げた。第2位は、2年前に本店を創業の地に移転した宇津救命丸(株)(塩谷郡高根沢町、医薬品卸売)1597年創業で業歴429年、第3位は(株)上澤梅太郎商店(日光市、野菜漬物製造)が1603年創業の業歴423年であった。以下、4位(株)高橋弥次右衛門商店(日光市、しょうゆ等製造)は1620年創業、5位の青源味噌(株)(宇都宮市、味噌製造)1625年創業、6位は、(有)丸伊呉服店(宇都宮市、呉服・服地小売)1627年創業、7位第一酒造(株)(佐野市、清酒製造)1673年創業、8位(有)溪雲閣(那須塩原市、旅館)1681年創業、9位(有)下藤屋旅館(那須塩原市、旅館)1683年創業、10位(株)シノザキ(宇都宮市、木材卸売)1689年創業などが並んだ。いずれの企業も、想像を絶する苦難を乗り越えて今を迎えている老舗企業であり、心から敬意を表するとともに、こういった企業から学ぶべき点は多々あるのだろうと改めて思う。

全国の状況

全国の老舗出現率を都道府県別にみると、京都府が 5.45%でトップだった。古都として栄え、第二次世界大戦中の被害が比較的小さかったことが老舗企業の存続につながっていると考えられる。「酒どころ」の山形県、新潟県が続き、3 府県が 5%を上回った。そのほか、日本海側の地域を中心に 5 県が 4%を上回り、全体の 3.11%を上回ったのは 23 府県だった。

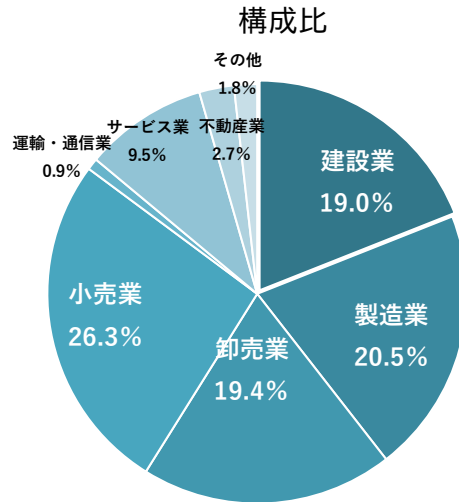
栃木県の立ち位置は、老舗企業出現率は3.07%で県別順位は25位であった。参考までに隣接県の状況を見ると、茨城県は出現率2.94%で27位、群馬県は出現率2.69%で33位だった。

老舗出現率 都道府県別					
都道府県	老舗企業率	順位	都道府県	老舗企業率	順位
北海道	2.26%	39	滋賀県	4.52%	6
青森県	2.15%	40	京都府	5.45%	1
岩手県	3.31%	20	大阪府	2.30%	38
宮城県	2.54%	35	兵庫県	2.89%	28
秋田県	3.81%	9	奈良県	3.29%	21
山形県	5.44%	2	和歌山県	3.67%	13
福島県	3.74%	11	鳥取県	3.57%	15
茨城県	2.94%	27	島根県	4.59%	4
栃木県	3.07%	25	岡山県	3.27%	22
群馬県	2.69%	33	広島県	2.71%	32
埼玉県	1.91%	41	山口県	3.20%	23
千葉県	1.87%	42	徳島県	3.41%	18
東京都	2.32%	37	香川県	3.08%	24
神奈川県	1.63%	45	愛媛県	2.81%	29
山梨県	3.45%	17	高知県	2.75%	31
長野県	4.50%	7	福岡県	1.82%	43
新潟県	5.07%	3	佐賀県	3.78%	10
富山県	4.01%	8	長崎県	2.77%	30
石川県	3.71%	12	熊本県	2.36%	36
福井県	4.56%	5	大分県	2.58%	34
岐阜県	3.50%	16	宮崎県	1.56%	46
静岡県	3.34%	19	鹿児島県	1.69%	44
愛知県	2.95%	26	沖縄県	0.17%	47
三重県	3.64%	14			

老舗企業「小売」「製造」「卸売」で、全体の 66.2%

栃木県内企業で、判明している現在の業種別にみると、最も多いのは小売業で老舗企業全体の 26.3%を占めた。次いで、製造業(20.5%)、卸売業(19.4%)が続き、3 業種で全体の 66.2%を占めた。以下、「建設業」が 19.0%、「サービス業」9.5%、「不動産業」2.7%、「運輸・通信業」0.9%などが並んだ。企業全体では建設業やサービス業が多いものの、老舗企業は小売・製造・卸売が多いという結果となった。

老舗企業 業種大分類別

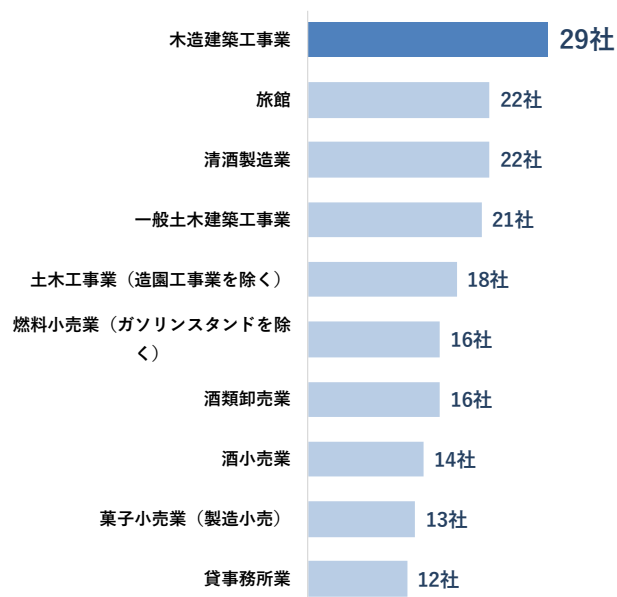


さらに業種細分類別で見ると、老舗企業数は「木造建築工事業」が 29 社で最も多かった。以下、「旅館」および「清酒製造業」が各 22 社、「一般土木建築工事業」21 社、「土木工事業」18 社、「燃料小売業」および「酒類卸売業」各 16 社、「酒小売業」14 社などが上位に並んだ。

栃木県においては、江戸時代初期には、東照宮の建立をはじめとする神社仏閣が充実してきた一方で、日光街道や例幣使街道の宿場町の造成などが盛んとなり、大工や土木業者、旅館などが徴用されていった。また、地場産業として醸造関係（酒、みそ、しょうゆなど）や燃料（当時は炭）を扱う業者が創業していくことになる。特に「炭屋」がのちのち「石炭」を扱うようになり、昭和以降はガソリンスタンドや、ガスおよびガス機器販売などに転換していく。当時の地方の様子がよくわかるし、時代を担った業者がここに並んでいるということであろう。

老舗企業 業種細分類別上位 10 業種

老舗企業数

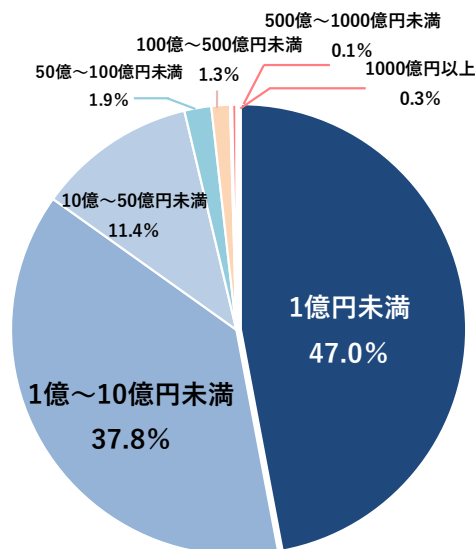


老舗企業の売上規模、「10 億円未満」が 84.8%

栃木県の老舗企業(売上高が判明している)を売上規模別にみると、「1 億円未満」が 47.0%、「1 億～10 億円未満」が 37.8%と、10 億円未満が 84.8%にのぼった。規模は小さくとも着実に長く事業を続けているケースが大半を占めた。以下、「10 億～50 億円未満」11.4%、「50 億～100 億円未満」1.9%、「100 億～500 億円未満」1.3%、「500 億～1000 億円未満」0.1%、「1000 億円以上」0.3%などが並んだ。

概ね県内企業の売上分布に比例しており、大手企業であっても老舗企業の占有率が高まるというものではないようだ。小規模企業や中小企業であっても、時代の変化に敏感に即応できる企業は事業を存続しているようだ。前述したように、創業時は炭の販売を行っていた会社が、明治期に石炭の需要に対応して扱い品目を迅速に変え、その後も、自動車が普及するのに対応して石油製品を扱うようになる。また、ガスの販売業者になっていくといったような「燃料販売業者」の変遷などは、よい例だと思う。

老舗企業 売上高構成比



まとめ

栃木県内企業の 2025 年における業歴 100 年を超える老舗企業は 739 社となり、老舗出現率は 3.07%であった。2000 年の 266 社と比較すると実に 2.8 倍に増加していることになる。つまりは、好景気が続いた明治時代後期から大正時代(富国強兵政策やデモクラシーと呼ばれる活性化)における、民間企業の台頭や産業の振興が種となり、100 年以上たった今様々な花を咲かせているといったイメージではないだろうか。

今後はどうなるのだろうか？昭和恐慌、太平洋戦争、戦後の混乱期…などの激動の時代を考えると、なかなか起業に目が向かなかった時代なのかもしれない。その意味では、今後 20 年程度は新たな 100 年企業は、数としてはやや弱含むのではないかと筆者は感じる。ただし、どんな時代にも生き残る“強い信念を持つ企業”は必ずあるもので、歴史は引き継がれるものと信じる。

いずれにしても、今残っている老舗企業は極めて貴重な存在であることは断言できるであろうし、激動の時代をどう乗り越えたのかといったノウハウは非常に興味深い。冒頭に述べた「学ぶところが多い」という意味はここにある。弊社も、こういった企業へのインタビューを今後も行いながら、事業を存続させる考え方などを発信していきたいと考えている。